

1. 開催概要

展覧会名	ホイッスラー展	
開催施設名	会期	入場者数
京都国立近代美術館	2014年9月13日～11月16日	58,773人
横浜美術館	2014年12月6日～2014年3月1日	103,669人
<p>●開催概要</p> <p>ジャポニズムの先駆者として世界的に知られ、19世紀の欧米画壇で最も影響のあったホイッスラーの国内では27年ぶりとなる大回顧展。</p> <p>世界でも20年ぶりとなる本展には、アメリカやイギリス、フランスなど世界各国の美術館や所蔵者から協力を得て、油彩、水彩、版画、所蔵品、関連浮世絵など170点を集め、ホイッスラーを本格的に日本で紹介する初めての試みとなった。</p> <p>ジャポニズムの画家として知られているホイッスラーの作品における「ジャポニズム」が実態としてどのようなものなのかを、講演会、図録を通して紹介した。ホイッスラー作品の主題は肖像画と風景画に、そして手法は油彩画と版画という二つのジャンルに大別されるが、それらが相互にどのような関係にあり、両者に「ジャポニズム」がどのような触媒として働いているかを、展覧会を通じて明らかにした。</p> <p>京都国立近代美術館および横浜美術館の2館合計の入場者数は16万人を超えた。目標人数には達することができなかったが、広く、ホイッスラーの美術を日本に紹介できた本展は、大変意義深い展覧会であった。</p> <p>来場者アンケートを行い、展覧会の理解度・満足度は全体の80.1%の方が「良かった」と回答し、理解を促せた。</p> <p>本展は、ジャポニズム学会が、優れた展覧会を表彰する2015年度の「ジャポニズム学会展覧会賞」を受賞した。</p> <p>(来場者アンケートに記載された主なコメントは次の通り)</p> <p>「作品数が多く、細かな作品までとりこぼさず展示されていた。そのおかげで、ホイッスラーの作品の魅力が深く知れた。」</p> <p>「ホイッスラーについて良く知らなかったが、作品が素晴らしく驚いた。」</p> <p>「日本の作品との比較をしながら見られる企画が良かった。ピーコックルームの映像も工夫されていて面白く見る事ができた。」</p> <p>「よく練られた展示で、展覧会の実現までには大きな苦労があったことが察せられる。空間構成、作品配列の工夫と壁色の変化がよい。わかりやすい解説パネルにも好感を持った。」</p>		

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

● 展示作品の質・量の充実

展覧会開催のためには、ホイッスラー作品の代表作である《灰色と黒のアレンジメント No.2: トーマス・カーライルの肖像》(グラスゴー美術館)の高額の保険料を負担する必要があったが、本補償制度の適用を受けたことで展覧会を実現することができた。

保険料が軽減されたことにより、2会場ともに巡回が可能となったため、結果としてより多くの日本国民に貴重な機会を提供することができた。

● 教育普及活動の充実

ホイッスラー作品への理解をより深めてもらうために各会場で記念講演会などを次の通り開催した。

【京都展】

青少年層の観客獲得ならびに教育普及の一環として、NHK 京都放送局とともに「ジュニアガイド」を 35000 部作成し、京都市内の小学 5・6 年生、中学 1・2 年生全員に配付した。

また、記念講演会のほか、3 回にわたりホイッスラーに関する講演会を開催したほか、ホイッスラー展鑑賞の手助けをする短いレクチャーを館内で 7 回行った。

ジャポニスム学会と共催でシンポジウムを開催することで、ホイッスラーに関するより幅広い情報を提供し、美術に関心の高い層の需要にも応えるよう配慮した。しかし秋は学校行事が数多く、学校単位での来館がほとんどなかったこともあり、小・中学生の来館は 745 人に留まった。一方シンポジウムには、定員の 100 名を超える応募があり、関心の高さがうかがわれた。

◆ 記念講演会

「ジェームズ・マクニール・ホイッスラー(1834-1903): 芸術のコスモポリタン」

講師: パトリシア・ド・モントフォールト(グラスゴー大学文化芸術学部 美術史講師)

日時: 9 月 13 日(土) 午後 2 時～午後 3 時 30 分

会場: 京都国立近代美術館 1F 講堂

参加人数: 78 人

◆ 講演会

「ホイッスラー作品の魅力と革新性: 色と形のシンフォニーそしてジャポニスム」

講師: 池田祐子(京都国立近代美術館主任研究員)

1) 日時: 9 月 25 日(木) 午後 2 時～午後 3 時 30 分

会場: 高槻市立生涯学習センター

参加人数: 181 人

2) 日時: 9 月 26 日(金) 午後 2 時～午後 3 時 30 分

会場: 芦屋市立公民館ルナ・ホール

参加人数: 494 人

3)日時:10月10日(金)午後2時～午後3時30分

会場:豊中市立千里公民館

参加人数:115人

◆シンポジウム

「ジャポニズムの全貌～ホイッスラーから何が始まったのか？」

日時 2014年10月4日(土)午前10時～午後5時

会場 京都国立近代美術館1階講堂

主催 ジャポニズム学会、京都国立近代美術館、京都市美術館

参加人数 103人

【セッション1:講演と発表】

基調講演:馬淵明子(国立西洋美術館館長)「ジャポニズムの新側面」

発表1:小野文子(信州大学准教授)「ホイッスラーのジャポニズムとその広がり」

【セッション2:発表】

発表2:三浦篤(東京大学教授)「1860年代のホイッスラー-異国趣味と画中画の視点から」

発表3:鶴園紫磯子(ピアニスト・桐朋学園大学講師)「ホイッスラー-音楽的タイトルがもたらしたもの」

発表4:橋本順光(大阪大学准教授)「ホイッスラーが切り結んだ日本-橋・花火・禅-」

【セッション3:ディスカッション】

◆作品鑑賞授業プログラムA

対象:小学生

実施回数:1回

参加人数:14人

◆作品鑑賞授業プログラムB

対象:大学生

実施回数:2回

参加人数:計77人

【横浜展】

青少年層の観客獲得ならびに教育普及の一環として、エデュケーターが「ジュニアガイド」を執筆・構成し、NHKとともに15万部作成、横浜市内の小学5・6年生、中学1・2年生全員に配布し、児童・生徒層およびその保護者層の獲得をはかった。また、学芸員による一般向けギャラリートークのほか、小・中学校の美術教諭向けのレクチャー、高感度層に向けた事前申込み制の夜間特別レクチャーなどを実施した。さらに事前にリクエストのあった団体グループには観賞前のミニ・レクチャーを行い、多様な鑑賞者層からの学習ニーズに対応した。

NHKが近隣の自治体と連携して実施する教養講座において、2回にわたってホイッスラーに関する講演会を行った。

◆ 記念講演会

1)「ホイッスラー その生涯と画業」

講師:小野文子氏[本展監修者 信州大学学術研究院 准教授(教育学系)]

日時:2014年12月6日(土)午後2時—3時30分(1時30分開場)

会場:横浜美術館レクチャーホール

参加人数:127人

2)「ホイッスラー テムズ川の浮世絵師」

講師:馬淵明子氏[国立西洋美術館館長]

日時:2015年1月17日(土)午後2時—3時30分(1時30分開場)

会場:横浜美術館レクチャーホール

参加人数:240人

◆ 講演会

「ホイッスラー人と作品—展覧会へのいざない」

講師:内山淳子(横浜美術館主任学芸員)

1)日時:2015年1月21日(水)午後2時~午後3時30分

会場:板橋区立文化会館小ホール

参加人数:267人

2)日時:2月6日(金)午後7時~午後8時30分

会場:砂町文化センター第1.2研修室

参加人数:207人

◆アートティーチャーズデー

対象:市内小・中学校の美術教諭

実施回数:1回

参加人数:29人

◆学芸員によるギャラリートーク

日時:2015年1月9日(金) 参加人数:50人

日時:2015年1月23日(金) 参加人数:75人

日時:2015年2月6日(金) 参加人数:120人

◆夜の美術館でアートクルーズ

日時:2015年1月14日(水)参加人数:27人

日時:2015年1月24日(土)参加人数:30人

◆鑑賞とワークショップ 親子で「ホイッスラー展」をみよう

日時:2015年1月12日(月・祝) 参加人数:34人

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

ヒヤリハット事例も含め、事故は全くなかった。

4. 安全配慮に関する特別の対応

- ・日本国内の陸路全便に各所蔵者代表1名以上と主催者1名が同乗した。また会場間の作品輸送時には、全便2名のドライバー体制で走行し各館での作品搬入・搬出にも研究員・学芸員が全て立ち会いをした。
- ・コンディションレポートを作成し、貸し手及び借り手の両方で確認し署名した。
- ・美術品のシーズニングの期間については24時間以上行った。
- ・適正な作品環境を保ち、温湿度記録を作成・保管した。
- ・設備、防火、防犯設備について保守、管理の責任者を定め、定期的に点検整備を行い、それを記録・保管した。
- ・美術品の陳列、監視、施設の警備、適正な環境を保つための設備の運用、防火、防犯設備についての業務マニュアルを作成し、担当者に周知徹底した。

5. 紹介事例・今後の改善点等

ホイッスラーの作品にふれたことのある日本人の数が少なく、本展を通じて、画家・ホイッスラーを初めて知る来場者が多かった。

本展は過去最大数の海外所蔵館が本制度を承認した初めてのケースとなった。大英博物館をはじめ多くの海外美術館に本制度の内容について承認を得ることができたことは、本制度においても大きな実績になったと考えている。これをきっかけに欧米の美術館に対する本制度の理解がさらに深まることを期待している。

美術品補償制度の適用については、展覧会チラシ、ホームページ並びに会場入り口のメイン看板などにその旨を記載した。

6. 展覧会の収支決算書

主催者名

京都国立近代美術館、横浜美術館、NHK、NHKプロモーション

●収入

●支出

区分	内 訳	決算額 (当初予算額)
展	展覧会収入・その他の収入 共催者負担	403,324,855 円
収入総額		403,324,855 円

区分	内 訳	決算額 (当初予算額)
企	企画準備等基本経費	242,072,783 円
	設営・運営等会場関係費	161,252,072 円
支出総額		403,324,855 円